

知的障害について

知的障害とは

- おおむね18歳までの発達期に発生し、「読む」「計算する」といった知的機能に困難があつて、社会生活にうまく適応できない状態です。
- 障害の程度はさまざまで、重度の知的障害がある人は、同伴者を必要とすることもありますが、軽度の知的障害がある人には、社会に出て働いている人もいます。また、知的障害のある人は、感性の豊かな人が多いです。
- けがや高齢化によつて知的機能が低下したり、適応行動ができない場合とは区別されます。
- 重度の肢体不自由と重度の知的障害が重複した状態を「**重症心身障害**」といいます。自分一人では日常生活を送ることが困難であるため、自宅で介護を受けたり、専門施設に入所したりして生活しています。また、病院などでの管理がなければ、呼吸することや栄養を摂取することも困難な状態を「**重症心身障害**」といいます。

言葉の説明

- **認知症**… 生後いったん正常に発達した種々の精神機能が慢性的に減退・消失することで、「日常生活・社会生活を営めない状態」をいう。後天的原因により生じる知能の障害である点で、知的障害とは異なる。

こんなことに困っています！

- **複雑な会話や抽象的な概念を理解しにくい**です。
物事を考えることに時間がかかることから、手順を覚えることが困難であったり、ルールや約束事を理解できなかつたり、予定や先の見通しを立てることが苦手な人もいます。
- **自分の考えや気持ちを伝えるのが苦手**です。
生活に必要な情報が得られなかつたり、他人とトラブルになつたり、困ったことが起きても自分から助けを求められなかつたりします。
- **文字の読み書きや計算が苦手**な人もいます。
いろいろな書類や製品の取扱説明書などが理解できなかつたり、お金の計算ができないため一人だけでは買い物に行けないなど、生活をする上で困ることがあります。
- **集中力や自己をコントロールする力が弱い**人もいます。
長い時間、人の話を聞くことができなかったり、落ち着きなく動き回る人もいます。また、いやなことがあると、怒つたり泣いたりしてしまうことがあります。

コミュニケーションのポイント

- 話しかけるときは、穏やかに優しい口調で「こんにちは」とか「どうしましたか」などと声をかけましょう。厳しい口調だと萎縮させてしまいます。
- 説明する場合は、わかりやすい単語を使って、短く具体的に説明しましょう。相手が理解していない様子であれば、言葉を変えて、さらについていぬいに繰り返し説明しましょう。
- 知的障害がある人に質問する場合、答えやすいような聞き方をするようにしてください。また、相手がゆつくり考えて答えることができるように慌てないで待ちましょう。

ポイント 知的障害の程度によつては、自尊心の高い人もいます。
知的障害があるからといって、赤ちゃんと話すような言い方や接し方はしないで、その人の年齢に応じた話し方や接し方をしてください。

- 突発的な出来事に弱く状況判断ができないので、「泣きわめく」「飛び跳ねる」「ひっくりかえる」などのパニック状態になる場合があります。そのときはゆとりをもって穏やかに話しかけ、落ち着ける場所に誘導しましょう。

望まれる心配りの例

- 知的障害がある人は、「赤信号でも渡る」「遮断機が降りても線路に入る」など、危険に対する認識がなかつたり、助けを求めることができない場合があります。そのときは、できるだけ優しく、危険であることを知らせましょう。
- 難しい漢字や長い文章は理解できないことが多いので、漢字にはルビを振る、長い文章は短くわかりやすい文章にするなど、工夫する必要があります。
- 文字や会話によるコミュニケーションが困難な知的障害がある人には、絵や写真、○×などのサイン、コミュニケーション支援ボードなどを使って、その人の意思をくみ取るよう工夫してください。
- 知的障害がある人は、悪意がなく行動すること（例：お店の商品を並べ替える。大きな声を出す。一つの物や人を見続けるなど）があります。その行動をやめてほしい場合は、優しい口調で「終わりにしましょう」「どうしましたか」などと声をかけてください。場合によっては、その行動をそつと見守ることも大切です。

